

主な質問と回答

質 問	回 答
モニタリングについて	
<p>水産物モニタリングの検査体制を詳しく教えてください。</p>	<p>まず、漁期ごとに魚種を選定し、月曜日に、実際に漁業者が操業していた漁場で魚を獲ります。 火曜日には、獲った魚について、小名浜にある県水産試験場で、骨や内臓などを取り除くなど、検体とするための処理を行い、水曜日に、福島県農業総合センター(郡山市)で測定を行い、結果を公表しています。</p>
<p>モニタリング調査で漁業者が採捕した際、県は全量買い取るのでしょうか。 そうでない場合は、残った魚はどう扱っているのでしょうか。</p>	<p>検査に必要な量は200グラム程度ですので、漁業者から必要な分だけを預かっています。なお、魚の買取りはしていませんが、漁業者に対し、出漁していただいた代金をお支払いしています。</p>
<p>安全性を強調したいがためのデータとして、疑問を持たれない体制になっているのでしょうか。</p>	<p>調査結果に偏りや漏れがないよう、過去に規制値を超えた魚種やその近縁種を重点的に検査しています。なお、結果については、すべて公表しています。</p>
<p>沿岸30km以内を回遊して南下した魚(サバ等)を茨城沖で漁獲した場合、安全だと言いきれるのでしょうか。</p>	<p>回遊性の魚種は、操業開始前に検査を行い、安全性を確認するとともに、操業開始後も定期的に検査を行っていますので、検査の結果を見て判断することになります。 なお、現在、市場に流通している魚については、安全なものですので、ご安心ください。</p>
<p>採集場所はどのように決定するのでしょうか。</p>	<p>実際の漁場を中心に採集し、定点的な調査になるようにしています。</p>
<p>広域(他県も含めて)での共通した方法での調査予定はあるのでしょうか。</p>	<p>緊急時モニタリングについては、漁業を再開するための判断材料として行っていますので、現時点では他県と連携する考えはありません。</p>

質 問	回 答
生態について	
<p>底魚はどれくらい移動するのでしょうか。</p>	<p>これまでの調査では、多くの魚種が広範囲に移動していることがわかっています。 例えば、アンコウは、青森で放流したものが、福島・茨城で捕獲されることもあるため、かなり広範囲に移動していると考えられます。</p>
<p>標識放流をする予定はあるのでしょうか。</p>	<p>興味深い内容ですが、放流した魚の回収率は、非常に低くなることが想定されるため、現在のところ実施する考えはありません。</p>
<p>魚の産卵時期などによって、放射性物質の取込みは違うものなのでしょうか。</p>	<p>放射性物質は、エサとともに取込まれることが想定されますが、魚は産卵期が近づくと、エサを摂らなくなることが多いため、大きな影響はないものと考えています。</p>
<p>海底土壌と魚が同じ場所にある場合、放射性物質の濃度に関連性はあるのでしょうか。</p>	<p>海底の泥についても、毎月調査を行っていますが、現時点で関連性は明確になっていません。</p>
<p>魚種毎の地域別、水深別、時系列の違い(変化)について教えてください。</p>	<p>福島第一原子力発電所からの距離があるほど、水深が深いものほど数値が低くなる傾向があります。</p>
<p>海面に近い魚は食べてもよいのでしょうか。</p>	<p>海面を泳いでいる魚も、海底のエサを食べることなどがありますので、現在実施しているモニタリングの結果を参考にする必要があると思います。</p>

質 問	回 答
海の環境について	
<p>海底にホットスポットはあるのでしょうか。ある場合、その影響はどのようなもののでしょうか。</p>	<p>明確にはわかりませんが、海底の状況は様々ですので、放射性物質がたまりやすい「ホットスポット」はあるのではないかと思います。</p>
<p>海底土壌(四倉定線調査)について、5月以降は減少傾向にあったのが、なぜ9月12日の値は高くなっているのでしょうか。</p>	<p>採取する土の量やその時々天候などの関係で、データにばらつきが生じるのはやむをえないと考えていますが、調査を積み重ねることで、全体としての傾向を評価していきたいと思っています。</p>
<p>小名浜四号埠頭での海底土壌の数値が高いと聞いたことがあるのですが、それについて教えてください。</p>	<p>そのような事実はありません。(後日確認済み)</p>
<p>汚染が沖へ拡散していく理由を教えてください。</p>	<p>潮の流れなどに乗って、沖に広く拡散するものと考えています。</p>
<p>海水の流れと放射性物質の季節的な変化について教えてください。</p>	<p>季節的な変化については、把握できていません。 なお、福島第一原発の北側より南側の方が、放射性物質の濃度が高い理由としては、福島県沿岸域は、北から南への潮流があることが影響していると考えています。</p>
<p>複合汚染の心配もあるので、魚はどのくらいの数値なら食べても安心なのか目安を細かく教えてください。</p>	<p>現在の暫定規制値は、一般的な食生活をモデルとして、設定されていると聞いていますので、多品目を摂取したとしても、それぞれが規制値を下回っていれば、問題はないと思います。</p>
<p>河口の海底土壌の放射性セシウムの濃度を測定しているのか。測っているのならその変化はどうなっているのでしょうか。</p>	<p>調査している地点に河口付近も含まれていますが、現時点では、「河口」であることで数値が大きく変わるということはありません。</p>

質 問	回 答
分析について(検体数)	
<p>福島県沖全体の海洋を分析する上で、検体数は少ないのではないのでしょうか。</p> <p>サンプリング調査として、簡易検査機器を活用して検体数を増やすことはできますか。</p>	<p>国の基準に適したゲルマニウム半導体検出器を使用した検査には限界がありますが、県水産試験場に1台同機を導入する予定です。</p> <p>なお、各漁業協同組合に簡易検査機器を配置していますが、あくまで簡易検査に使用する機器であるため、参考として活用する考えです。</p>
分析について(分析する部位)	
<ul style="list-style-type: none"> ・どの部位の分析を実施しているのでしょうか。 ・計測は食用部なのでしょうか。 ・骨や内臓などの部位ごとの調査は行わないのでしょうか。 	<p>緊急時モニタリングは、筋肉・可食部を基本としていますが、例えば胆が美味しいアンコウなどは、内臓も含めて検査するなど、その魚ごとに検査する部位は変えています。</p> <p>骨などについては、現在調査中です。</p>
<p>魚種によって放射性物質の蓄積する部位が異なるのでしょうか。</p>	<p>現在、分析をしているところですので、結果を報告します。</p>
分析について(検出限界値)	
<p>イカ、タコについては、2桁から検出限界値未満であり、低い数値が続いているようですが、どうしてでしょうか。</p>	<p>メカニズムは不明ですが、軟体動物は放射性物質が蓄積しにくいものと言われています。</p>
<p>検出限界値の設定について教えてください。</p>	<p>現在は、検出限界も併せて公表していますので、新聞などに「 > 」と表記されています。</p> <p>数値は異なりますが、概ねセシウム134、137、それぞれ10ベクレル未満となっています。</p>
<p>福島県農業総合センターでの水産物の測定で、検出限界値と定量限界値は概ねどのくらいか。</p>	<p>検出限界値については、概ねセシウム134、137、それぞれ10ベクレル未満となっています。定量限界値についてはわかりません。</p>

質 問	回 答
分析について(検査方法)	
<p>科学的データとしてなら、数週間かけて結果を出してもいいが、食品としての魚という点で見たとき、短時間で結果の出る検査方法はあるのでしょうか。</p>	<p>短時間で検査できる高精度の機器があるといいのですが、現在の検査では、1検体あたり、30分程度かかっています。 漁業再開後は、魚市場に配備した簡易測定機器で、スクリーニングを実施し、その検査で一定値を超えたものを対象にゲルマニウム半導体検出器で精密な測定にかけると、安全性を担保していきたいと考えています。</p>
分析について(分析結果)	
<p>魚の大きさにより、同じ種類でも最大値は異なるのでしょうか。</p>	<p>サイズで比較したデータはまだ示されていませんが、将来的には研究していく必要があると考えています。</p>
<p>水深 200m以深の底棲魚の放射線量のピークは何ヶ月後に来るのでしょうか。もしくは現在がピークなのでしょうか。</p>	<p>どちらとも言えません。</p>
<p>汚染水放出後、時間が経つにつれてセシウムの濃度が上昇傾向の魚は見られますか。</p>	<p>そうした魚種は今のところ見られません。</p>
<p>生息水域・食性がほぼ同じと考えられるウニ、アワビとのセシウム含量の違いについて教えてください。</p>	<p>アワビが海藻類のみを食べるのに対し、キタムラサキウニはそれ以外も食べますので、食性には若干違いがあります。 しかし、ウニとアワビで違う理由については、現在、わかっていません。</p>
<p>底生の魚種の値が高いのは理解できるが、磯魚のアイナメ、メバルの値が高いことについて教えてください。</p>	<p>磯に定着して棲んでいるため、他の魚のようにいろいろな場所へ移動しないことや食物連鎖の上位の魚であり、魚食性があることが原因と考えています。</p>
<p>回遊性の魚種(サンマ)について、福島第一原子力発電所から半径100kmの漁獲規制があるが、今後も必要でしょうか。</p>	<p>半径100kmの漁獲規制は、風評被害防止のために漁業関係者が自主的に行った取り組みです。今後については、検査の結果を見ていく必要があると思います。</p>

質 問	回 答
分析値がNDのものは、平均値を出す母数に使うのでしょうか。	便宜上、NDの数値は0として扱っています。
情報開示について	
汚染拡大結果も公表するのでしょうか。	これまでの測定結果は、福島県水産試験場のホームページで公表しています。
海に入ったときの安全性について	
<ul style="list-style-type: none"> ・海上(実習や部活動)での活動で、急性被曝は問題ないということですが、慢性被曝的な事は検証されるのでしょうか。 ・沿岸部、海に入ってからどの程度の時間・場所なら安全なのでしょうか。 	水産庁から、漁業の就労安全性の通知が出されていますので、漁労作業は可能です。
漁業再開について	
<ul style="list-style-type: none"> ・漁業再開の見通しはあるのでしょうか。 ・漁業が再開できる条件で、具体的な数値があるのでしょうか。エリア、魚種を限定すれば、漁は再開できるのではないのでしょうか。 	<p>漁業者の立場としては、すぐにでも操業を再開したいという考えですが、魚が売れるかどうか心配です。</p> <p>一方、現状では、未だに暫定規制値を超える放射性物質が検出される魚もあるため、検査結果を参考にしながら、安全性が確認できた海域、魚種を区切って、試験的に操業を開始するなどの対応を検討しているところです。</p>
漁業再開について、風評被害、若しくは数値の関係など決め手はあるのでしょうか。	決め手はありません。検査の結果や消費者の声などを聞きながら考えていく必要があると思います。
・漁業再開へのロードマップをどのように作っていくのでしょうか。	検査結果を参考にしながら、安全性が確認できた海域、魚種を区切って、計画を立て、試験的に操業を開始するなどの対応を検討しているところです。